

研究課題名：	経口抗菌薬適正使用のための取り組みの評価
所属(診療科等)：	公立昭和病院 感染管理部・薬剤部
研究責任者(職名)：	一ノ瀬 直樹 (担当係長)
研究期間：	2018年10月19日～2019年3月31日
研究目的と意義：	<p>抗菌薬の不適切・不必要な使用を背景として薬剤耐性菌が増加している。2013年における全世界での薬剤耐性菌による死亡数は70万人と言われているが、このまま対策を講じなければ、2050年には1000万人になるとも推計されている。これまで日本国内においては、入院患者における静注用抗菌薬の適正使用の取り組みに対する多くの報告はされているが、経口抗菌薬に関する取り組みの報告は少ない。しかし、我が国における2009年から2013年にかけての販売量に基づいた抗菌薬使用動向調査によると、全体の使用量に対して経口薬が平均92.6%を占めていた。経口薬においては、第3世代セファロスポリン系、マクロライド系、フルオロキノロン系が全体の77.1%を占めていたことが明らかとなり、諸外国と比較すると、不適切な使用がなされており、より薬剤耐性に対する懸念が明らかとなった。それを受けて日本では、2016年4月には、薬剤耐性(AMR)アクションプランが制定され、抗菌薬使用においては2020年における成果指標が示された。</p> <p>公立昭和病院では、2012年より経口抗菌薬使用に関して監視・啓発の強化を進めてきている。具体的には採用経口抗菌薬の削除・見直し、経口抗菌薬の後発品への変更、周術期予防的抗菌薬・クリニカルパスの見直し、教育・啓発活動、使用動向の監視およびフィードバックなどである。また、AMRアクションプラン制定後は、院内外の勉強会やフィードバックを増やすなど、より啓発の強化を行ってきている。経口抗菌薬の適正使用の取り組みが医師の抗菌薬選択にどのような影響を与えたかを明らかにする目的で、経口抗菌薬の系統別の処方動向の調査を行います。</p>
研究内容：	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象となる患者さん 全ての患者を対象とする。</li> <li>●利用するカルテ情報 処方箋データ</li> <li>●研究方法 処方箋データを用いて、経口抗菌薬の処方動向について後ろ向きに検討を行う。</li> <li>●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院、慶應義塾大学薬学部</li> </ul>
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：一ノ瀬 直樹 (感染管理部・薬剤部) 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042(461)0052(代表) FAX：042(464)7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042(461)0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)</p>